

# 橋 り よ う 台 帳

石神橋

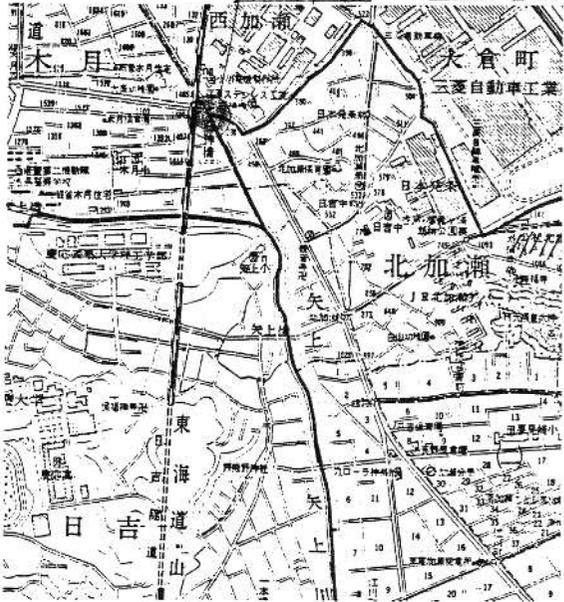
No. 13009	ふりがな 橋 名	しゃくじんばし 石神橋	道路種別	1. 国 ②主 3. 県 4. 市(1級・2級・一般)	路線名	県道主要地方道鶴見溝ノ口線	所在地	起点側 川崎市幸区西加瀬203 終点側 川崎市中原区木月4丁目22-1	中原区役所道路公園センター				
橋下種別 (名称)	①河川 2. 道路 3. 鉄道 4. その他 ( ) 渋川		上 部 工				下 部 工						
橋 格 (示方書)	1 等橋 (TL-13、TT-、その他 ) 道路橋示方書 ( 年 月)		径 間 割	2.500m+13.000m+2.500m			下 部 工 ( 軀 体 )			基 礎 工			
設計震度	K <sub>H</sub> = K <sub>V</sub> =		構造形式	3 径間連続鉄筋コンクリートT桁橋			名称	構造形式	材種	名称	構造形式	材質	
橋 長	18.00m		路面位置	①上 路 2. 中 路 3. 下 路			A 1	形式 重力式	R C	A 1	形式 直接基礎		
幅 員	車道 12.00 m 歩道 2×3.00 m、有効幅員 18.00 m 地覆 2×0.45 m、総幅員 18.90 m		地震対策	1. 桁移動制限装置 2. S <sub>E</sub> 値 3. 連結装置 4. その他 ( )			橋台	H= L= B=		A 2	形式 直接基礎		
橋面積	324.00㎡		細 部 構 造				橋台	H= L= B=	R C	A 2	形式 直接基礎		
平面線形	1. 直 ②斜 3. 曲 4. その他 ( ) 斜角 α = 49° 13' "、曲線半径 R = m		支 間	2.500m+13.000m+2.500m	主桁本数	9本	P 1	形式 壁式		R C	P 1	形式 杭基礎	
縦断勾配	橋りょう部 %、取付道路部 %		主桁間隔	2.000m		主桁高	0.660m	橋脚	H= L= B=		R C	P 2	形式 杭基礎
横断勾配	車道部 %、歩道部 %		床版厚	車道 mm 歩道 mm	舗装厚	車道 mm 歩道 mm	橋脚	H= L= B=	R C	P 2		形式 杭基礎	
規定限界	規定桁下端高	A. P. T. P. m	伸縮継手	エラストイト			橋脚	形式		R C		形式	
	規定制限幅	m	高 欄	形式・材質	堅格子型、鉄筋コンクリート		橋脚	H= L= B=			橋脚	φ = L= 本	
	規定桁下空間高	m	防 護 柵	路面からの高さ	0.980m		橋脚	形式	R C		形式		
		m	支 承	形式・材質	m		橋脚	H= L= B=			橋脚	φ = L= 本	
標 高	中央桁下端高	A. P. T. P. m	防 水 層	種類 シート防水			橋脚	H= L= B=	R C		形式		
	最低桁下端高	A. P. T. P. m	床版コンクリート	σ <sub>ck</sub> =	N/mm <sup>2</sup>	P C、R C 桁用コンクリート	σ <sub>ck</sub> =	N/mm <sup>2</sup>		杭打工法	打込み工法・埋込み工法・場所打ち工法・その他 ( )		
	最高水位 (H.W.L.)	A. P. T. P. m	P C工法	P C鋼線(棒)の種類			主 要 材 料						
	計画河床高	A. P. T. P. m	主 要 材 料										
	橋下路面高 (橋下軌道高)	A. P. T. P. m	主 鋼 材 (材質別)			t	基礎杭	鋼杭 本、R C 杭 本、P C 杭 本、 場所打杭 本					
施工年月	下部工	年 月 ~ 年 月	鋼 材	鉄 筋 ( " )			t	鋼 材	主鋼材 (材質別)				t
	上部工	年 月 ~ 昭和29年3月	P C鋼材 ( " )			t	鉄 筋 ( " )				t		
事 業 費	全体事業費	千円 千円/㎡	コンクリート	m <sup>3</sup>	アスコン	t	コンクリート	m <sup>3</sup>					
	橋りょう上部工費	千円 千円/㎡	照 明 灯	形式、灯数 灯、高さ m			上部工反力 1基当り (地震時)	橋 台	kN ( kN)				
	橋りょう下部工費	千円 千円/㎡	上 部 工 死 荷 重	各径間毎 kN (kN/㎡)			橋 脚	kN ( kN)					
	取付道路費	千円	施 工 業 者	桁製作工	河崎組	工 費	千円	取付道盛土高	既存地盤からの高さ m				
用地補償費その他	千円	桁架設工			千円		施工業者			工 費	千円		
設計業者			上部仕上工			千円							
記 事	マイクロ 有 無 枚		記 事	(架設工法)			調書作成	機関名 ㈱間瀬コンサルタント		年 月 日 氏 名 田所 政志			



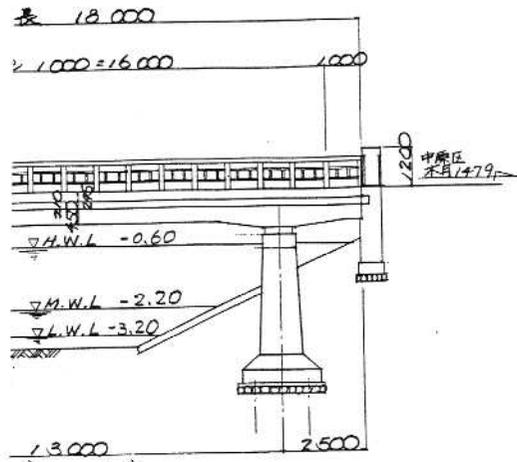
No. 9	ふりがな 橋 名	石 神	道路種別 橋	1.国 2.主 3.県 4.市(1級・2級・一般)	路線名 鶴見溝口線	所在地 起点 側川崎市幸区面加瀬 203 終点 側川崎市中原区本月 4丁目 22-1	中原 土木事務所
橋下種別 (名称)	①河川 2.道路 3.鉄道 4.その他 ( )			上 部 工		下 部 工	
橋 格 (示方書)	1 等橋(TL- 13, TT- その他)			径 間 割		下 部 工 ( 軀 体 )	
設計震度	K <sub>H</sub> = K <sub>V</sub> =			構造形式		基 礎 工	
橋 長	18.00 m			路面位置		名称	
幅 員	車道 12.00 m 歩道 2×3.00 m, 有効幅員 18.00 m 地覆 2×0.45 m, 総幅員 18.90 m			地震対策		構造形式	
橋 面 積	340.2 m <sup>2</sup>			細 部 構 造		材 種	
平面線形	1.直 2.斜 3.曲 4.その他 ( ) 斜角 α = 49°13', 曲線半径 R = m			支 間		名称	
縦断勾配	橋梁部 % , 取付道路部 %			主桁間隔		構造形式	
横断勾配	車道部 % , 歩道部 %			主桁高		材 種	
規定限界	規定桁下端高 A.P. T.P. m			主桁高		名称	
	規定制限幅 m			主桁高		構造形式	
	規定桁下空間高 m			主桁高		材 種	
標 高	中央桁下端高 A.P. T.P. m			主桁高		名称	
	最低桁下端高 A.P. T.P. m			主桁高		構造形式	
	最高水位 (H.W.L.) A.P. T.P. m			主桁高		材 種	
	計画河床高 A.P. T.P. m			主桁高		名称	
施工年月	橋下路面高 (橋下軌道高) A.P. T.P. m			主桁高		構造形式	
	下部工 年月 ~ 年月			主桁高		材 種	
事業費	上部工 年月 ~ 昭和 29 年 3 月			主桁高		名称	
	全体事業費 千円 千円/m <sup>2</sup>			主桁高		構造形式	
	橋梁上部工費 千円 千円/m <sup>2</sup>			主桁高		材 種	
	橋梁下部工費 千円 千円/m <sup>2</sup>			主桁高		名称	
	取付道路費 千円			主桁高		構造形式	
設計業者	用地補償費その他 千円			主桁高		材 種	
	施工業者			主桁高		名称	
記 事	マイクロ有無 枚			主桁高		構造形式	
	記事 (架設工法)			主桁高		材 種	
				調整作成		機関名	
				調整作成		氏名	
				調整作成		年月日	



# 石神橋 位置図

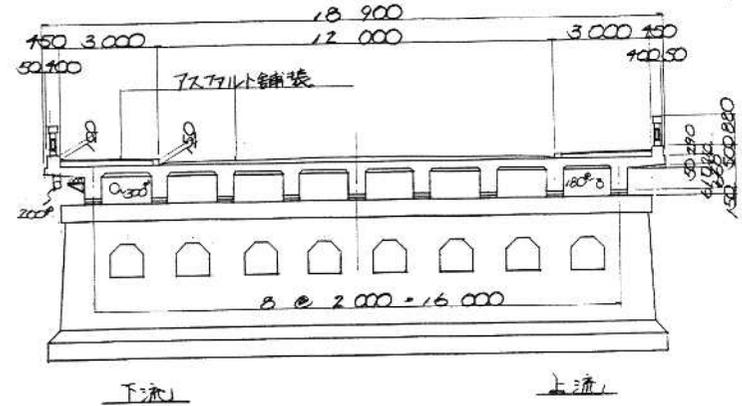


## 立面図

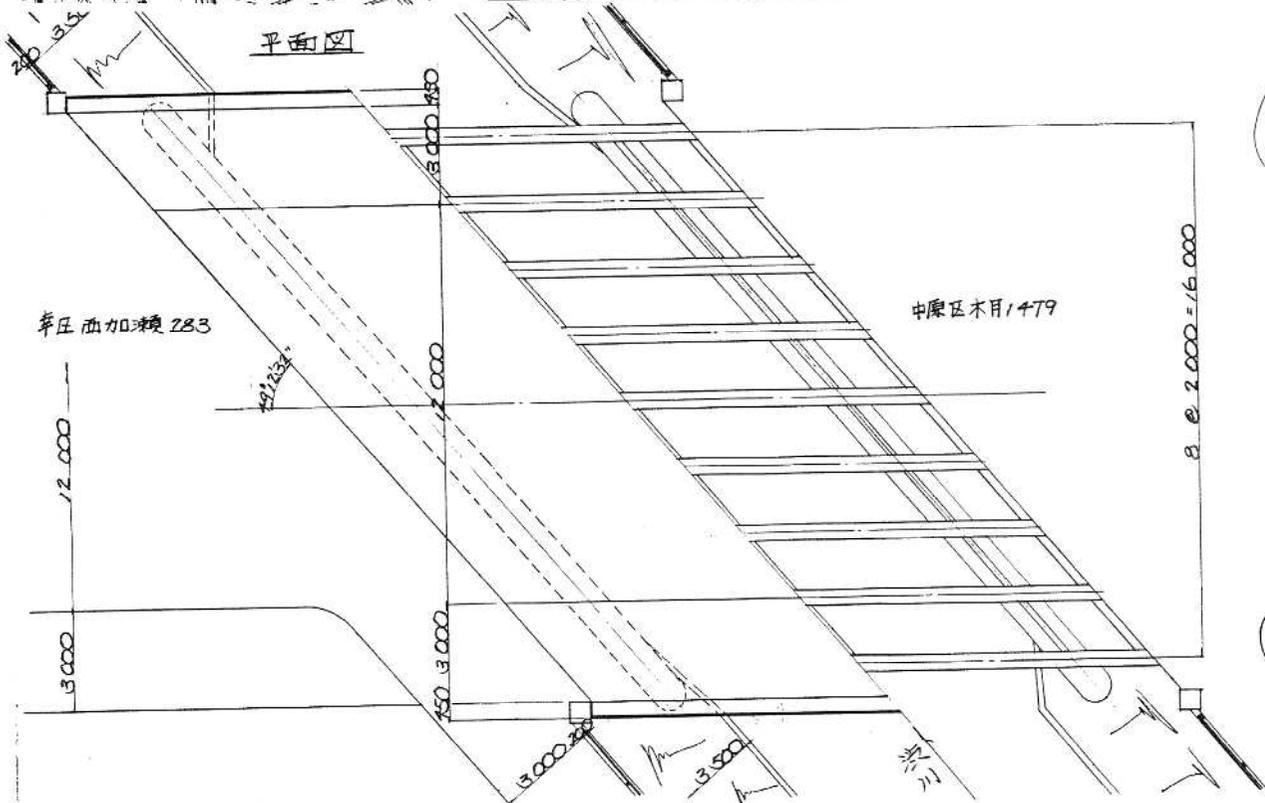


1. 可能な限り寸法を記入する。
2. 位置図, 平面図, 側面図, 断面図を全て記入する。

## 断面図



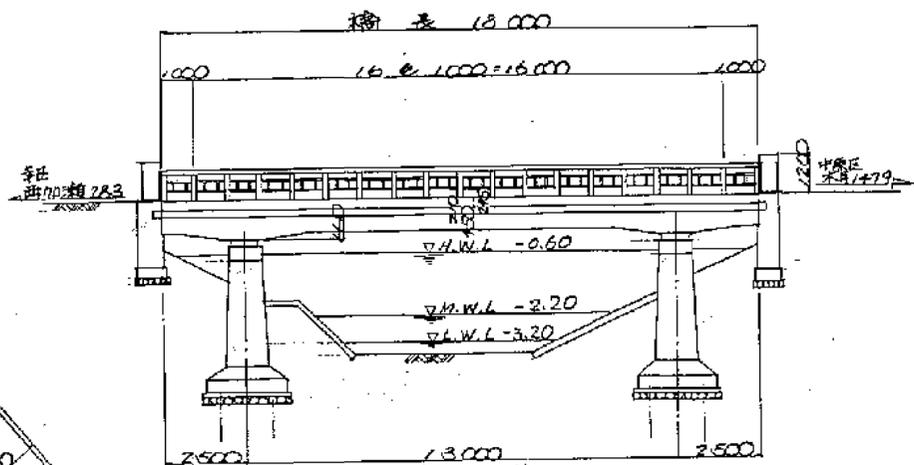
## 平面図



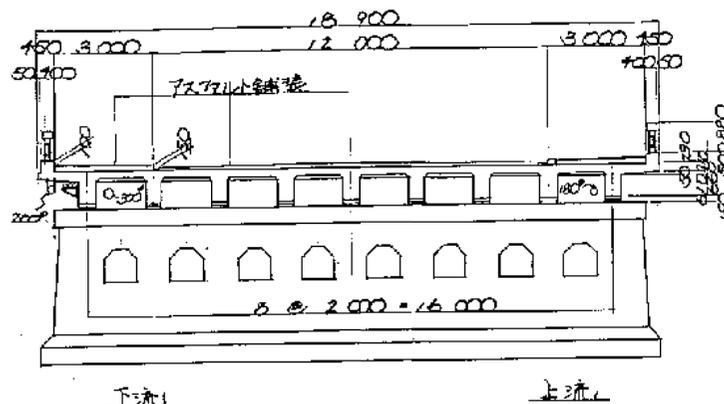
石神橋  
一般図

1. 可能な限り寸法を記入する。
2. 位置図, 平面図, 側面図, 断面図を全て記入する。

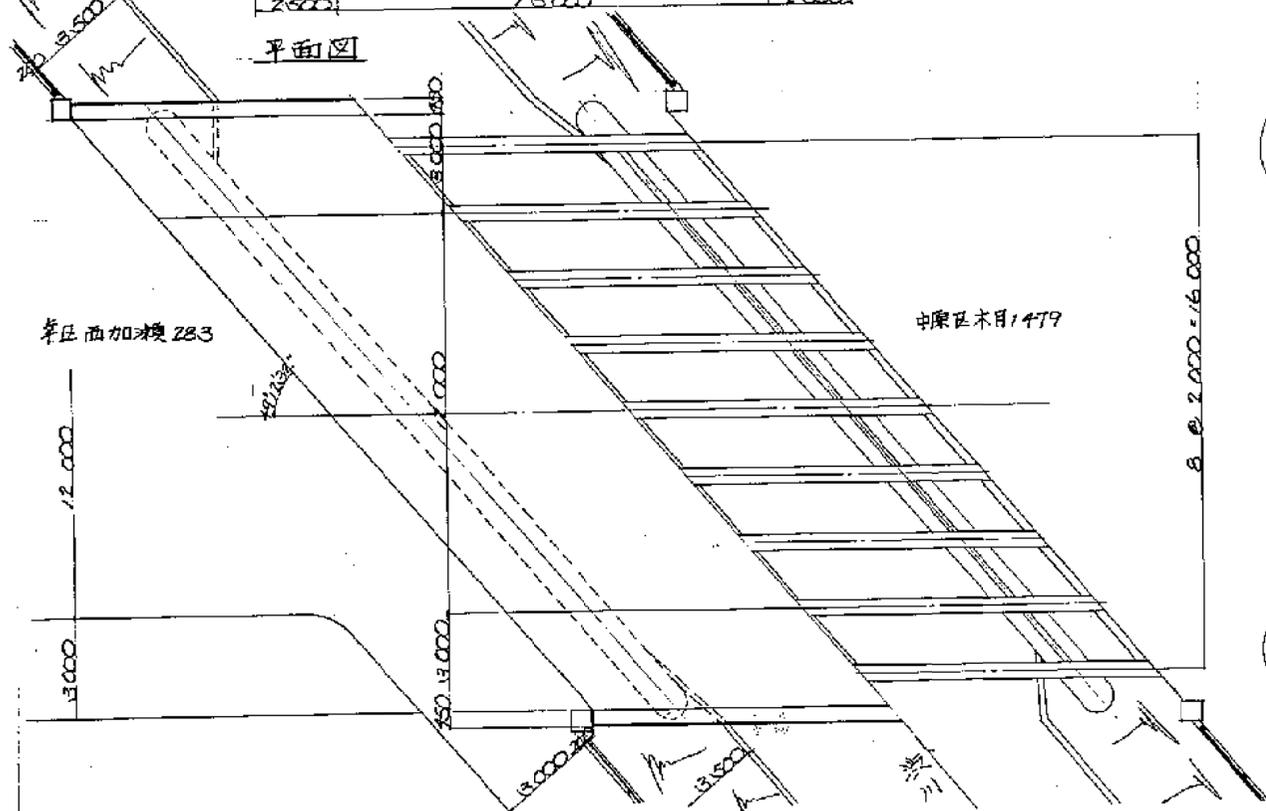
側面図



断面図



平面図



石神橋  
一般図

# 全 景 写 真

平成19年8月 日撮影

側 面 (上流・下流)



正 面 (左 岸)



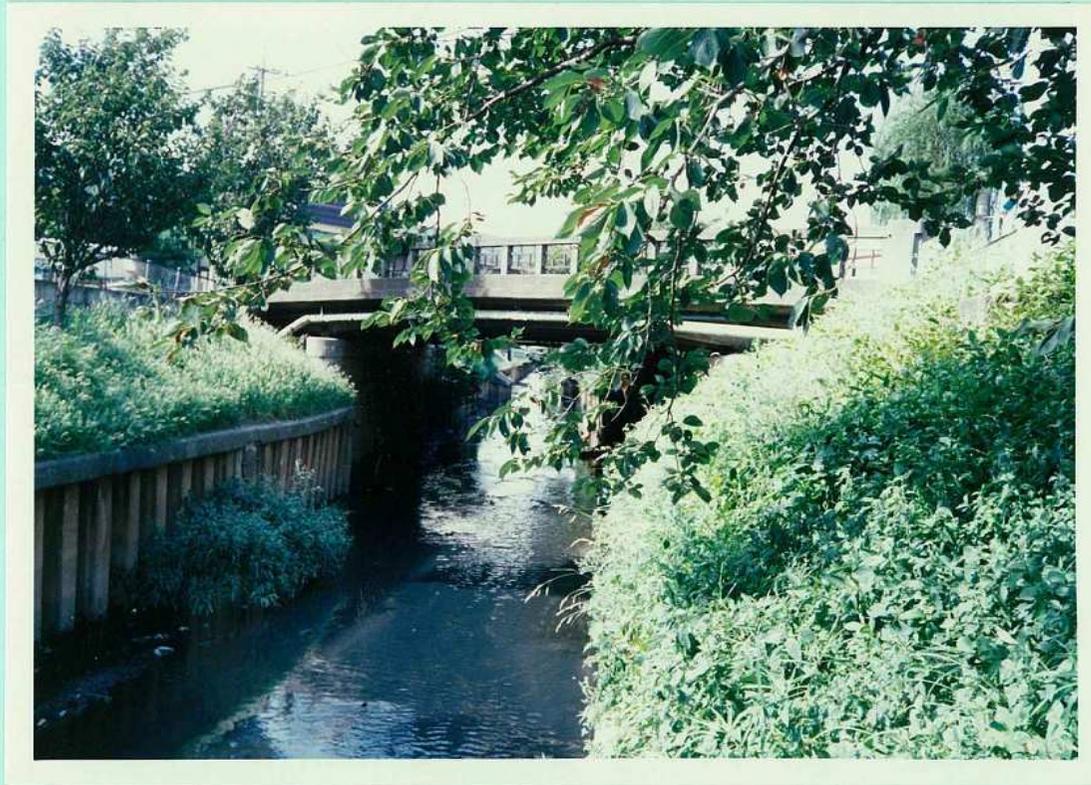
正 面 (右 岸)



全 景 写 真

62年 9月 1日 撮影

側 面 (主流・下流)



正 面 (左 岸)



正 面 (右 岸)



全 景 写 真

2007年8月 日 撮影

側 面 (上流・下流)



正 面 (左 岸)



正 面 (右 岸)



橋梁名・所在地・管理者名等

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度	35° 33' 28.1"	橋梁ID
石神橋 (フリガナ)シャクジンバシ	鶴見、溝の口線	川崎市幸区西加瀬203		経度	139° 39' 29.6"	35.55781,139.65822
管理者名	定期点検実施年月日	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)
川崎市中原区役所 道路公園センター 整備課	2021.12.15	渋川	有	一般道	その他	有

部材単位の診断(各部材毎に最も厳しい健全性の診断結果を記入) 定期点検者 横浜エンジニアリング株式会社 宮川康晴

定期点検時に記録				応急措置後に記録		
部材名	判定区分 (I~IV)	変状の種類 (II以上の場合に記載)	備考(写真番号、 位置等が分かる ように記載)	応急措置後の 判定区分	応急措置内容	応急措置及び 判定実施年月日
上部構造	主桁	I				
	横桁	I				
	床版	III	漏水・遊離石灰、補修・補強材の損傷	写真1~5:床版0301[1径間目]・床版0302[2径間目]・床版0801,0901[3径間目]		
下部構造	II	その他(不法占用)	写真6: 壁壁01[1径間目]			
支承部	II	腐食、変形・欠損	写真7,8: 支承本体0702[2径間目]、アンカーボルト0502[1径間目]			
その他	III	舗装の異常、路面の凹凸、土砂詰まり	写真9~11: 舗装0201[1,3径間目]、伸縮装置0101[1径間目]			

道路橋毎の健全性の診断(判定区分 I ~ IV)

定期点検時に記録	
(判定区分)	(所見等)
III	床版の補修跡に再劣化が認められ、舗装の損傷とも関連が考えられる事から、橋梁構造の安全性の観点により、速やかに補修を行う必要がある。

全景写真(起点側、終点側を記載すること)

架設年次	橋長	幅員
1954年	18.00m	18.90m
橋梁形式		
3径間連続鉄筋コンクリートT桁橋		

起点側



終点側



起点側

※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

状況写真(損傷状況)

○部材単位の判定区分がⅡ、Ⅲ又はⅣの場合には、直接関連する不具合の写真を記載のこと。

○写真は、不具合の程度が分かるように添付すること。

<p>上部構造(床版)【判定区分: Ⅲ】</p> <p>写真1</p>  <p>床版0301[1径間目]</p>	<p>上部構造(床版)【判定区分: Ⅲ】</p> <p>写真2</p>  <p>床版0302[2径間目]</p>
<p>上部構造(床版)【判定区分: Ⅲ】</p> <p>写真3</p>  <p>床版0302[2径間目]</p>	<p>上部構造(床版)【判定区分: Ⅲ】</p> <p>写真4</p>  <p>床版0801[3径間目]</p>

状況写真(損傷状況)

○部材単位の判定区分がⅡ、Ⅲ又はⅣの場合には、直接関連する不具合の写真を記載のこと。

○写真は、不具合の程度が分かるように添付すること。

<p>上部構造(床版)【判定区分: Ⅲ】</p> <p>写真5</p>  <p>床版0901[3径間目]</p>	<p>下部構造(縦壁)【判定区分: Ⅱ】</p> <p>写真6</p>  <p>縦壁01[1径間目]</p>
<p>支承部(支承本体)【判定区分: Ⅱ】</p> <p>写真7</p>  <p>支承本体0702[2径間目]</p>	<p>支承部(アンカーボルト)【判定区分: Ⅱ】</p> <p>写真8</p>  <p>アンカーボルト0502[1径間目]</p>

状況写真(損傷状況)

○部材単位の判定区分がⅡ、Ⅲ又はⅣの場合には、直接関連する不具合の写真を記載のこと。

○写真は、不具合の程度が分かるように添付すること。

<p style="text-align: center;">その他(舗装)【判定区分: Ⅲ】</p> <p>写真9</p>  <p style="text-align: right;">舗装0201[1径間目]</p>	<p style="text-align: center;">その他(舗装)【判定区分: Ⅲ】</p> <p>写真10</p>  <p style="text-align: right;">舗装0201[2径間目]</p>
<p style="text-align: center;">その他(伸縮装置)【判定区分: Ⅱ】</p> <p>写真11</p>  <p style="text-align: right;">伸縮装置0101[1径間目]</p>	<p style="text-align: center;">【判定区分: 】</p>